

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：自転車通行路	
日付：11月1日（土）曜日、セッション時間：9：00～10：30	
司会者名（所属）：元田良孝（岩手県立大学）	
討 議 内 容	セッション全体：朝一番のセッションであったが参加者は約 50 名程度あり活発な議論がなされた。3 本の論文が発表された。86 は自転車専用道路、87, 88 は自転車道に関するものである。86 は自転車道の目的に関する質問、87 は自転車道のデザイン、自転車と車道の管恵の質問、88 はポストコーン設置の法的位置づけ、ワークショップの方法に関する質問があった。主な質疑応答は以下の通りである。
	（86）森正樹（北海道大学）：道道札幌自転車道線の路線選定における合意形成に関する研究 Q. 自転車道の利用目的は何か。目的に合ったルートを選定が必要ではないのか。 A. 利用者のアンケートを見るとレクリエーション用かということそうでもない。事業主体の道路管理者もこの点は明確でない。 Q. 自転車の利用頻度の差による回答の違いはないか。 A. 今回は調査していない。
	（87）宮武雄治（国土交通省）：高松市中心部における歩行者・自転車通行空間に関する研究 Q. 歩道上の自転車レーンの構造はどうか。タイルだと走りにくい。 A. 住民の要望で茶色にした。舗装はインターロッキングではなくカラー舗装である。 Q. 人→自転車・公共交通→自動車という提言だが、具体的な実施方法は。植栽帯つづせないか。 A. 車道の削減も考えている。合意形成が必要である。
	（88）宮崎正典（埼玉大学）：ワークショップ方式で設置された自転車通行帯の効果に関する研究 Q. 自転車通行帯とすると車と自転車の分離のポストコーンは違法ではないか。逆走自転車の割合。 A. 車道外側線の外側に設置したので違法ではない。逆走は 2 割くらいである。 Q. 狭い車線にポストコーンは走行の邪魔にならないか。 A. アンケートなどではクレームはなかった。